

# 平成26年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

学校名	岡山県立和気閑谷高等学校
事業名	和気あいあい論語プロジェクト
事業の必要性・テーマ	<p>本事業のテーマは次のとおりである。</p> <p>◎ユネスコスクールとしてESDの拠点となり地域との連携を強化</p> <p>(1)アクティブラーニングを活用した授業力の向上  (2)地域コミュニティに活かす道徳的実践力の向上</p> <p>本校は、全校集会では論語朗読を行い、論語を今に活かし新しい時代を生きていくための指針とするなど、閑谷学校の学びの精神を受け継いでいる。また、2011年1月にはユネスコスクールに認定され「歴史・文化・地域・伝統・世界遺産」をキーワードに、地域密着ボランティア活動を中心としたESDに取り組んでいる。さらに、25年度から佐藤暁先生(岡山大学大学院教育学研究科教授)の指導の下「わかりやすい授業に関する研究」を開始し、生徒参加型授業、協同学習、評価方法をテーマとした授業改善を進めている。一方、例えば、論語の学びは教員主導型のままで生徒主役の活動にはなっていないこと、ESD活動はUNESCOのHPで紹介されるなど高い評価を受けているが地域の小中学校と連携した活動には至っていないこと、授業改善の取り組みも緒に就いたばかりで継続が必要であること等、課題を多く抱えているのが現状である。</p> <p>そこで、生徒が主役となる教育活動を授業全体に導入するための実践研究を推進するとともに、本校生徒が『論語』および本県の教育遺産である『閑谷学校』をテーマに地域の小中学生と学び合う場を設定することで、ESDの拠点校として地域を愛し地域の未来を担う人材を育成するプロジェクトとする。</p> <p>また、論語朗読は全校集会だけでなく卒業式の式辞の中でも行い、論語掲示板や来年度から導入するスケジュール手帳、特別入学者選抜の作文題材等、『論語』は本校におけるキャリア教育や学習習慣の確立のために、教育活動の様々な場面で活用されている。この実績を踏まえ、論語の学びを通して小中高生を対象に一貫して豊かな心の育成の推進に寄与するモデルを創り出していく。</p>
事業の概要・進め方	<p>(1)アクティブラーニングを活用した授業力の向上</p> <p>「わかりやすい授業」に関する公開授業と教員研修会、評価に関する教員研修会を年間を通して継続的に実施する。また、授業では協同学習に共創的ディスカッションの仕組みを融合し、異なる意見があることを前提に共通の知や態度を創り上げていく思考プロセスを導入する。さらに、生徒の自律的な学習スタイルの醸成と内発的な学習意欲の喚起のために学習合宿「夢ゼミin閑谷学校」を実施する。</p> <p>①「わかりやすい授業」に関する公開授業と教員研修会  講師：佐藤暁先生(岡山大学大学院教育学研究科教授)</p> <p>②評価に関する教員研修会  講師：畑喜美夫先生(広島県立安芸南高等学校)</p> <p>③授業でグループによる協同学習展開のための卓上型ホワイトボード</p> <p>④夢ゼミin閑谷学校  日程：11月15～16日  場所：閑谷学校  講師：藤岡慎二先生(島根県立隠岐島前高校魅力化プロジェクトディレクター)  豊田庄吾先生(隠岐國学習センター長)  対象：ユネスコスクール世界大会の運営に関わった生徒(20名)  内容：隠岐國学習センターの「夢ゼミ」の手法を取り入れた自律的な学び合いを通して、準備セミナーと大会本番で学んだ内容を自分の言葉でまとめ表現し、学びを深めていく。</p> <p>(2)地域コミュニティに活かす道徳的実践力の向上</p> <p>本校生徒が論語について研究し、地元の小中学生と学び合う場を設定する。総合的な学習の時間の中で世界遺産学習・閑谷学校学習を展開するための教材を開発する。</p> <p>また、釈菜(せきさい)・釋奠(せきてん)への参加や中国曲阜第一中学への代表生徒団派遣を通して、閑谷学校の歴史文化遺産としての価値を広めていくとともに、論語についての研鑽を深め国際的な視野を広げる。さらに、11月に開催されるユネスコスクール世界大会において、海外ゲストを招いての地域交流会で論語朗読を披露し国際交流を深める。</p>

## 平成26年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

<p style="text-align: center;"><b>事業の概要・ 進め方</b></p>	<p>本校生徒が講師役となり、小中学生および地域の方を対象に論語朗誦を行う。論語を声に出す機会を通じて言葉を大切にし豊かな心をもった児童・生徒を育てることを目標とする。閑谷学校の歴史を受け継ぐ本校生徒が、小中学生の範となるべく講師役を務めることで地域文化の継承や愛校心を育成する。生徒どうしで評価賞賛しあうことで自己肯定感の向上も期待できる。「子曰く、徳は孤ならず、必ず隣有り」(里仁第四)</p> <p>①論語に関する書籍購入と研究                  ②論語に関する講演会                      講師：青少年教育センター閑谷学校の先生                          安岡定子先生(論語塾講師)                  ③『声に出して読みたい論語百章』(仮称)発行                  ④ESD教材開発                  ⑤釈菜・釋奠への参加                      湯島聖堂孔子祭交流…生徒2名、引率教員1名(東京都 4月26～27日)                      多久聖廟釈菜交流…生徒2名、引率教員1名(佐賀県 10月25～26日)                      足利学校釋奠交流…生徒2名、引率教員1名(栃木県 11月22～23日)                  ⑥中国曲阜第一中学訪問交流…生徒4名、引率教員2名(8月3～6日)                  ⑦地域での論語朗誦                  ⑧道徳教育に関する教員研修会                      講師：秋山博正先生(くらしき作陽大学音楽学部教授)</p>		
<p style="text-align: center;"><b>達成目標</b></p>	<p>【継続性】上記作成テキストは平成27年度以降も地元の小中学校や地域の中で論語の学習を進めるテキストとして活用することができ、継続的な地域連携が展開できる。また、平成27年度入学生から1年次に学校設定教科「クロストレーニング」(仮称)を新規導入することにしており、その中で本校生徒の学習教材としても活用できる。</p> <p>【道徳心】「自愛」…自己肯定感・自分らしい生き方を追求する心、「親愛」…家族愛・郷土愛・公共心・規範意識、「敬愛」…他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う心、以上3点から成る「仁」という理念を核とした教育活動の推進が期待できる。</p> <p>【学習意欲の向上】小中高の交流が、そこに参加する一人ひとりに刺激となり、学習意欲の向上に繋がることを期待できる。</p> <p>【ESD】持続可能な社会や未来をいかに築くか、それは誰の社会？誰の未来？、そして私は何をやる？、というESDの課題に対し、論語をテーマにした小中高の交流の中で一人ひとりが具体的な行動を通して答を探ることが期待できる。</p> <p>【地域への愛着】「地域と高校」「町と県」「小中と高」などこれまでなめらかな接続ができなかった多様な主体が協働し、閑谷学校を核に地元地域に関心を深めるとともに地域を愛する心を育てることができる。</p> <p>○数値目標                  ・学校や地域での論語学習会、論語朗誦会…10回以上                  ・事業評価アンケートを実施し、「あてはまる、ややあてはまる」が70%以上</p>		
<p style="text-align: center;"><b>実績と成果 (目標の達成 状況を含む。)</b></p>	<p>(1)アクティブラーニングを活用した授業力の向上                  ○「わかりやすい授業」に関する公開授業と教員研修会(予定6回→実施5回)                      実施：5月13日、6月3日、9月24日、11月26日、1月13日                      講師：佐藤暁先生(岡山大学大学院教育学研究科教授)</p>	<p>事業 達成率</p>	<p>100%</p>
<p>○評価に関する教員研修会                      実施：5月19日                      講師：畑喜美夫先生(広島県立安芸南高等学校)                      演題：子どもが自ら考えて行動する力を引き出すコーチング</p>			
<p>○夢ゼミin閑谷学校                      実施：11月15～16日                      講師：藤岡慎二先生(島根県立隠岐島前高校魅力化プロジェクト                          ディレクター)                          豊田庄吾先生(隠岐國学習センター長)</p>			

## 平成26年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

<p>(2)地域コミュニティに活かす道徳的実践力の向上</p> <p>○探究学習「論語・閑谷学校研究」 全10回(第8～10回はポスター作成と発表リハーサル) 「私の好きな論語」を発表 論語章句集の作成に向けて 論語・孔子・閑谷学校に関連するテーマで調査</p> <p>○論語に関する講演会(予定5回→実施3回) 実施:9月26日、10月3日(探究学習生徒対象) 講師:青少年教育センター閑谷学校の先生</p> <p>実施:12月24日 講師:安岡定子先生(論語塾講師) 演題:論語を楽しみ活かす～こども論語塾を通して</p> <hr/> <p>○先進事例研究 興譲館高校訪問(7月24日)</p> <p>○『声に出して読みたい論語百章』発行</p> <p>○ESD教材開発</p> <p>○論語作文</p> <p>○釈菜・釋奠への参加 湯島聖堂…生徒2名、引率教員1名(4月26～27日) 多久聖廟…生徒2名、引率教員1名(10月25～26日) 足利学校…生徒2名、引率教員1名(11月22～23日)</p> <p>○曲阜第一中学訪問…生徒4名、引率教員2名(8月3～6日)</p> <hr/> <p>○生徒による地域での論語朗読、論語授業、発表など 全校集会の運営と論語朗読(7月18日) 吉永中学校(10月24日) 藤野小学校(12月12日) 和気小学校(12月18日) 本荘小学校(3月3日、3月4日) 和気中学校(3月6日) 「論語」に学ぶシンポジウム(10月25日) 閑谷学校「まなび」フォーラム(2月14日) 旧中国銀行跡地での町内「論語塾」(3月14日、3月21日)</p> <hr/> <p>○道徳教育に関する教員研修会 実施:12月5日 講師:秋山博正先生(くらしき作陽大学音楽学部教授) 演題:高等学校における道徳性の育成</p> <hr/> <p>○論語の日常化 「今週の論語」を毎朝のSHRで素読 「今週の論語」を正門の論語掲示板に掲示 「今週の論語」を学校HPに掲載</p>	<p>事業 達成率</p>	<p>100%</p>
---	-------------------	-------------

## 平成26年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

	<p>(1)授業力の向上</p> <p>○学校アンケート          教員「授業内容の充実、改善に努めており、成果が感じられる。」          H27=5.5↑(H26=4.3)          教員「授業の指導内容や方法について、教員相互の研修を積極的に進めている。」          H27=6.5↑(H26=3.6)          生徒「学校では、授業の内容は工夫されてわかりやすく、学力向上に役立っている。」          H27=3.4↑(H26=2.9)</p> <p>○7つのカアンケート【グループ活動について】(4点満点)          「進んでリーダーシップをとる」2月=2.53↑(6月=2.24)          「自分から発言、意見述べる」2月=2.69↑(6月=2.51)          「必要と思われる役割を選ぶ」2月=2.83↑(6月=2.70)</p> <p>○公開授業は教科で実施するというスタンスができています。付箋やビデオを用いた研修会の方法も定着した。2年目となった佐藤先生の指導は今年度で終了するが、来年度以降は教務課主体で進めていくことになっている。</p> <hr/> <p>(2)道徳性の育成</p> <p>○事業評価アンケート(教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の評価点の加重平均=6.73              (よくあてはまる…10点、ややあてはまる…5点、あまりあてはまらない…5点、全くあてはまらない…10点)</li> <li>・評価点の高かったもの             <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による全校集会の運営と論語朗読=8.70</li> <li>生徒による小中学校での論語出前授業=8.41</li> <li>論語の日常化「今週の論語」素読など =7.78</li> <li>国内釈菜・釋奠への参加 =7.59</li> <li>曲阜第一中学訪問、探究学習での論語研究=7.50</li> </ul> </li> <li>・評価「よくあてはまる、ややあてはまる」の割合=93.0%</li> </ul> <p>○生徒の感想より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの目線に合わせることが大切と思った。              →自然にひざまずいて説明していた。</li> <li>・興味のなさそうな子にも興味を持ってもらえるように説明を工夫しようと思った。</li> <li>・和気閑谷高校だからこそ論語や閑谷学校について深く学ぶことができる。</li> <li>・素晴らしい伝統を受け継いでいきたいという思いが強まった。</li> <li>・これからも皆で和気閑谷高校をよりよい学校にしていきたい。</li> <li>・自分たちが和気閑谷高校に通っているということを今まで以上に誇りに思えた。</li> <li>・人前で話すことが多い活動だったので大変だったが、苦手なことに挑戦できて良かった。</li> <li>・自分の考え方に論語の精神が少しずつ入ってきたように感じる。良いように変わってきたと思う。</li> <li>・ポスターを作るとき「己の欲せざる所人に施すこと無かれ」を意識して協力できたように思う。これからも自分のことばかりではなく、相手のことを考えるようにしたい。</li> </ul> <p>○自分の好きな論語とその論語が生活の中でどのように役立ったか等、「自分と論語の関わり」を言えるようになってきた。</p> <p>○小・中学校、地元の方も協力的で、論語を勉強しようという機運が出てきている。小・中学校との連携、地域との連携が従来より一層深まった。</p>	<p>総合 達成率</p>	<p>100%</p>
<p>今後の課題</p>	<p>①授業改善について、教務課・研究主任を核として、学校全体で取り組む。          ②『論語』および本県の教育遺産である『閑谷学校』をテーマに地元の小・中学生や地域の方と学び合う場を設定することで、ESDの拠点校として地域と連携し高校を核とした地域づくりを推進する。</p>		

## 平成26年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

学校自己評価	5段階評価	5 ・ <b>4</b> ・ 3 ・ 2 ・ 1
	評価の理由、次年度以降の継続性等	<p>【評価の理由】 当初の計画に加え、夢ゼミ体験合宿および論語の日常化に加え、事業を進めることができた。「今週の論語」の素読については、「継続(改善して継続を含む)」が100%(教員アンケート)で、和気高独自の型で一斉に行い、そこに良さ、すごさを生徒自身が感じながら、定着していると言える。事業評価アンケートでは6.73点、特に生徒の主体的な活動について高得点となった。 このプロジェクトを通して、 ①生徒の自主性、グループ活動の力が向上した。 ②公開授業と研修会の手法が教員間に定着した。 ③生徒も教員も、和気高と論語のつながりをあらためてより強く意識することができた。 ④論語をキーワードに地域連携を深める契機となった。章句集を活用し次年度以降の継続が可能である。 ⑤OPPシートを活用し、各回の探究活動の記録を蓄積し、探究活動の開始時と終了時の変容を生徒自身で振り返る仕組みを作ることができた。</p> <p>【次年度以降の継続性】平成27年度学校経営計画の具体的な学校経営目標・計画(案) 目標(1)アクティブラーニングの機会を増やして主体的な学習者を育成し、生徒自らのキャリアを開発していく能力を伸長させて進路を保障する。 計画(4)論語手帳の「今週の論語」等を生徒一人ひとりが内化・内省・外化する機会を設ける。</p>
主管課評価	5段階評価	5 ・ <b>4</b> ・ 3 ・ 2 ・ 1
	見直しの余地改善提案等	<p>生徒が能動的に授業に臨むことを目的にアクティブラーニングの研究に積極的に取り組み、主体的に授業に臨む生徒が増加している。生徒の発表の中で、自分を変えようとする生徒、自分から意見を発表できる生徒、お互いが切磋琢磨できる生徒など、生徒の変容が見られ、他の学校が授業改善を行うモデルとなった。</p> <p>また、論語を活用し、地域に行くことで、落ち着いた環境の中で、生徒たちが自己肯定感、郷土愛、相手を思いやる心などの意識の向上が得られるとともに、地域おこし協力隊をはじめとした地域の支援を受け、論語朗読、観光ボランティア、駅前の活性化など、高校を核とした地域コミュニティの活性化と地域の担い手として、生徒たちが貢献していることを強く感じる事ができた。</p> <p>さらに、小学校の出勤授業の体験やESDへの体験を通して、新たな気づきや自らの進路に対する意識など、生徒が変わっていく様を見ることにより、事業の成果を十分感じたところである。 こうした取組を今後とも継続し、さらに高めていただきたい。</p>
委員評価	5段階評価	5 ・ <b>4</b> ・ 3 ・ 2 ・ 1
	指摘・指導・助言	<p>論語を中心に据えた長年の学校の取組の成果として、生徒たち一人一人に論語の考え方が根付いており、落ち着いた学習環境・生活環境を築くことができてい。その中であって、今年度の取組が新たな引き金となって、各教員のモチベーションの向上にもつながり、学校が論語を中心とした取組を進めていく上で、重要な1年となったといえる。</p> <p>また、生徒たちが地元の小中学生に対して論語の出勤授業を行ったことで、生徒たち自身の新たな成長の場となるとともに、生徒たちが地域の活性化に取り組むということ意識するきっかけにもなったといえる。学力偏重・偏差値偏重の教育が多い中で、こういった取組は今一度見直されるべき方向性であると思う。</p> <p>学校経営方針を立てるに当たって、分かりやすく、説明しやすいため、「数値目標」を掲げるが、それに伴って哲学や理念が抜け落ちてしまうことが多い。しかし、和気閑谷高校では、その理念がしっかりしている。「人格形成」は教育においてなくてはならないものであるが、生徒たちには、礼儀も含めてそれがしっかりと身につけていたことは、大きな成果である。 今後とも継続していくとともに、他の学校にもしっかり情報発信していただきたい。</p>

- ※評価の基準
- 5 見込みを大幅に上回る
  - 4 見込みを上回る
  - 3 見込みどおり
  - 2 見込みを下回る
  - 1 見込みを大幅に下回る